

平成28年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立金立小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童生徒一人ひとりの学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成28年4月19日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A, 算数A〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B, 算数B〕
- 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 - 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	- 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容 - 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備の状況, 児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

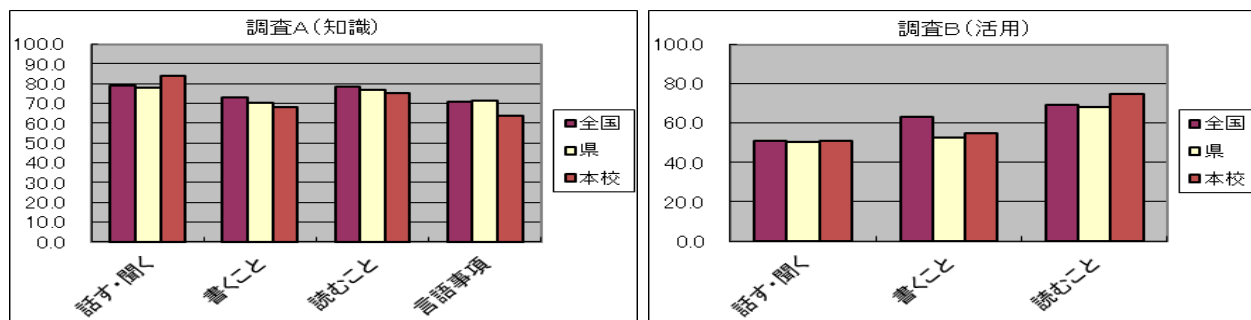
■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生(中学3年生)と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数(数学)に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国 語

(1) 結 果 全国・佐賀県正答率との比較 (※左から 全国・県・本校)



調査A(知識)では、全国の正答率を下回ったが、領域別にみると「話す・聞く」領域は上回っている。調査B(活用)は全国を上回った。全体の傾向として、選択式の問題の正答率が低く、記述式の問題の正答率が高い。

(2) 成果と課題

話す・聞く

・「話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問をする(記述する)問題」では、全国の正答率を大きく上回った。しかし、「質問したいことを整理したメモの工夫を見つける選択式の問題」では、全国の正答率を下回った。授業の中で質問メモを整理するなどの経験を増やしていく必要がある。

書 く

・「目的や意図に応じて、グラフを基に、自分の考えを書く問題」の正答率は、全国の正答率をやや上回ったものの、グラフを正しく読み取ったり、複数のグラフを比べたりする力が十分ではなかった。社会科や総合的な学習の時間など他教科でも、グラフを読み取ったり、文章で表したりする機会を増やしていく必要がある。

読 む

・「登場人物の人物像を、叙述をもとに捉え選択する問題」の正答率は、全国の正答率をやや下回った。物語文を学習するときに、どのような人物なのか、そして、どのような叙述をもとにそのように言えるのかを意識して読み進めていく必要がある。

言語事項

・「ローマ字を正しく読んだり、ローマ字で正しく書いたりする問題」の正答率が全国の正答率を大きく下回った。ローマ字の再学習と定着は喫緊の課題である。宿題などで復習の機会を設けたり、パソコンで文字や文章を入力する際にはローマ字入力をしたりするなど工夫して取り組んでいく必要がある。

(3) 学力向上のための取組

【学校では】

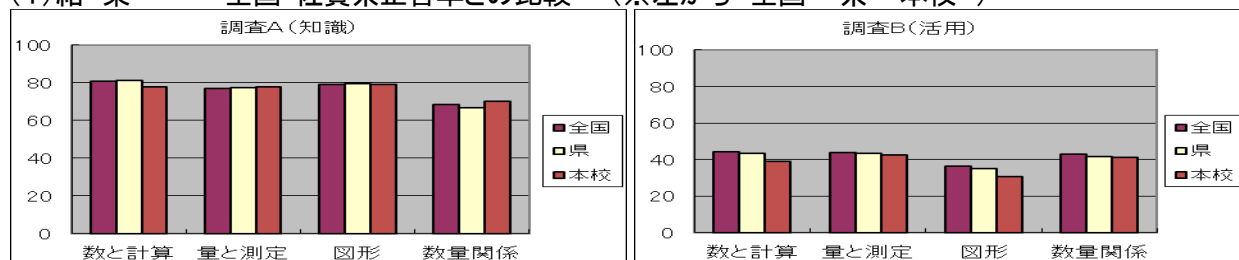
- 学校では、先生や友達の話最後までしっかりと聞くよう指導していきます。
- 国語の時間だけでなく、他の教科でも、自分の考えを表現する機会を意図的に取り組んでいきます。また、友達の考えと比べて表現したり、グラフ等の資料から分かることをまとめたりする機会を増やしていきます。
- ローマ字を復習する機会を定期的に設けていきます。

【ご家庭では】

- ノートプリント、テスト等の文字を見てください。「字をていねいに書く」「習った漢字は必ず使う」等、学校と家庭で共通の声かけをすることで、子どもたちの意識もさらに高まります。
- 本や新聞を読む習慣をつけましょう。多くの文章に触れることが、語彙力を高め、知識の幅を広げ、生きる力を身に付けることにつながります。

2 算 数

(1) 結 果 全国・佐賀県正答率との比較 (※左から 全国・県・本校)



調査A(知識)では、全国の前答率をやや下回ったが、領域別にみると「量と測定」「図形」「数量関係」領域は上回っている。調査B(活用)も、全体では全国をやや下回っているが、傾向として、記述式の問題の前答率は高い。問題解決型の授業を多く取り入れてきたことが功を奏している。算数に対する関心や意欲が高く、問題に対して粘り強く取り組もうとする態度が身についている。

(2) 成果と課題

数と計算

・小数の数の構成を十分に理解できていない。特に小数のわり算の、商と被序数の大きさの関係や、序数と被乗数に同じ数をかけても商は変わらないことなどの理解が十分ではなく、計算タイムなどで定着させる必要がある。

量と測定

・例をもとに用いられている考えを別の場面に適用してその説明を記述するような問題はよくできており、全国の前答率を大きく上回った。普段の授業で、前時の復習や見通しをもとに問題を解くことが生かされている。

図 形

・「示された四角形を並べてできる図形を選ぶ」問題では、全国の前答率を下回り、無回答率も高かった。後半の問題であったため、時間が足りなかった可能性が考えられる。問題を解くスピードを上げる必要がある。

数量関係

・グラフから貸し出し冊数を読み取り、それを根拠に、示された事柄が正しくない理由を記述する問題では、全国の前答率を上回ったが、正答者は約 3 分の 1 と少ない。また無回答率が高かった。後半の問題で時間が足りなかった可能性も考えられるが、長文やグラフでの問題を読み切れず、考える意欲が低下してしまった児童もいる。

(3) 学力向上のための取組

【学校では】

- 授業では、自分なりの解決方法を考え、友達と意見を伝え合いながらみんなで理解を深める問題解決型の学習を全学級で実践しています。今後はより一層練り合いの時間を充実させていきたいと思っています。
- TT, 少人数指導, ノートチェック, プリント, ドリル, 家庭への課題など, 日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ, 補充指導に努めています。指導方法改善担当と担任が今後も連携し, 必要に応じて課外補習などを行っていききたいと思っています。
- 毎週月曜日と木曜日の朝に「計算タイム」を設定し, 基本の四則計算の定着や集中力アップ及び脳の活性化を図っていききたいと思っています。

【ご家庭では】

- お子さんが今何を学習しているのか, 理解できているのか, 解くのにどれくらい時間がかかっているのか, ドリルやプリント等の宿題・テストに目を通し, 関心を持ってください。
- ちょっと意識をすると, 身の回りには算数があふれています。例えば料理。水一人分は〇mLだから4人分では…? 計量カップで水のかさを量る体験をすると量感が身に付きます。調味料のおいしい比を考えてドレッシングを作る, 8 等分したトマトは, 4 人家族で一人何個かな? 〇時に出来上がるように時間を逆算して仕込むと…? たくさんの算数が隠れています。家庭生活の場面で算数を使う機会を増やしましょう。

3 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣について》

調査項目	本校 %	全国 %
毎日同じくらいの時刻に寝ている。(どちらかといえばしているも含む)	73.7	80.1
毎日同じくらいの時刻に起きている。(どちらかといえばしているも含む)	86.8	90.8
朝食を毎日食べていますか。	97.4	95.5
平日2時間以上テレビを見る。(DVD・ビデオも含む)	47.4	57.1
平日2時間以上ゲームをする。(TVゲーム・パソコン・携帯型等も含む)	31.6	29.7
平日1時間以上スマホ・パソコン等で、通話・メール・インターネットをする。	13.2	18.5
新聞を毎日読んでいますか。(週半分以上)	10.5	24.0
テレビのニュース番組やインターネットのニュースをよく見ていますか。	68.4	57.2

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校 %	県 %
平日1時間以上勉強している。	68.4	62.5
平日1時間未満勉強している。(全くしていないは除く)	29.0	34.3
休日(土日)1時間以上勉強している。	50.0	57.0
家で、学校の宿題をしている。(どちらかといえばしているも含む)	94.7	97.0
家で、授業の予習をしている。(どちらかといえばしているも含む)	31.6	43.3
家で、授業の復習をしている。(どちらかといえばしているも含む)	73.7	55.2
平日読書を30分以上している。	34.2	36.5

(2) 改善に向けての取組

【学校では】

- 目標家庭学習時間(1時間)を全児童が達成できるよう、宿題の出し方を工夫します。
- 図書室前に返却BOXを設置して返却の時間を短縮し、図書室利用者を増やし、読書の機会を増やす取り組みを続けていきます。

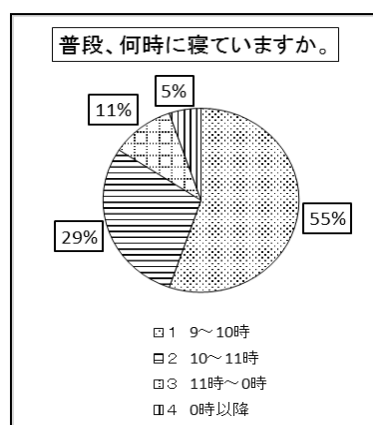
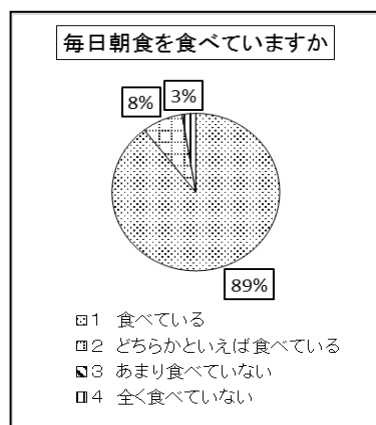
【ご家庭では】

- 規則正しい生活と家庭学習の定着に努めましょう。「雄飛学園メソッド」(家庭学習編)をご覧ください。毎日継続して家庭学習ができるように励ましてください。家庭学習時間の目安は低学年30分、中学年45分、高学年60分です。休日にも学習するよう声をかけましょう。「まなざしカード」を活用した基本的な生活習慣と学習習慣の改善を図る取組にご協力をお願いします。

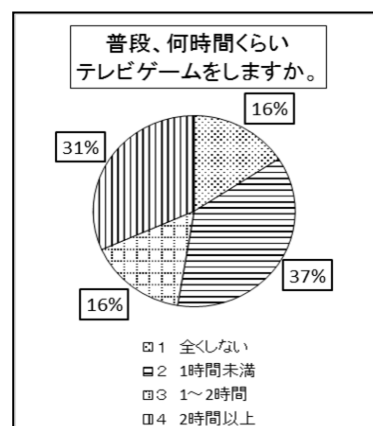
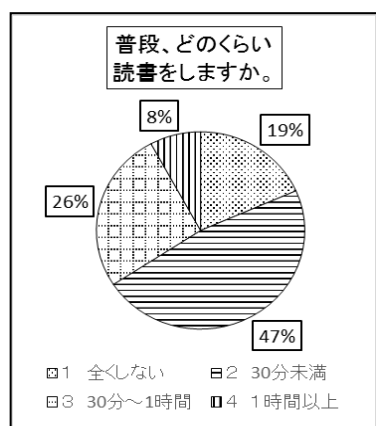
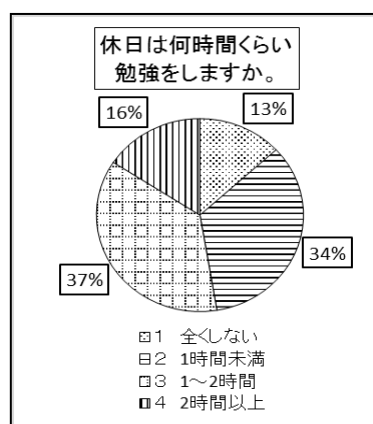
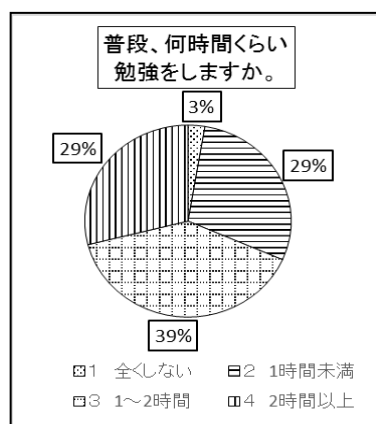
3 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣について》



《家庭学習の様子》



「早寝・早起き・朝ごはん」に関する意識は全国平均とほぼ同じである。毎朝朝食を食べている児童ほど、また、夜早く寝ている児童ほど、正答率の高い傾向があり、規則正しく生活することは学力の向上につながっていると言える。

目標学習時間（1 時間）を日々実行している児童が約 70%にとどまり、かなり個人差がみられる。また、休日（土日）1 時間以上勉強している児童は約半数にとどまっている。全く勉強をしないという児童は約 13%おり全国の平均を上回っている。学習時間が長い児童ほど正答率が高い傾向であることは言うまでもない。

読書の習慣化が図られておらず、30分以上読書をしている児童は約3分の1にとどまった。1時間以上ゲーム等をしている児童が約半数いる。読書を習慣化することは、長文に慣れる等学習面でも効果を発揮するほか、心を豊かにするものである。ゲームの時間が長い児童は正答率が低いという傾向がある。読書とゲームの時間のバランスを考えていく必要がある。

(2) 改善に向けての取組

【学校では】

- 目標家庭学習時間（1 時間）を全児童が達成できるよう、宿題の出し方を工夫します。
- 図書室前に返却BOXを設置して返却の時間を短縮し、図書室利用者を増やし、読書の機会を増やす取組を続けていきます。

【ご家庭では】

- 規則正しい生活と家庭学習の定着に努めてください。「雄飛学園メソッド」（家庭学習編）をご覧ください。毎日継続して家庭学習ができるように励ましてください。家庭学習時間の目安は低学年 30 分、中学年 45 分、高学年 60 分です。休日も学習するよう声をかけていただくと、子どもたちのやる気も増します。「まなざしカード」を活用した基本的な生活習慣と学習習慣の改善を図る取組に、今後ともご協力をお願いします。